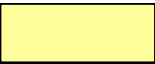

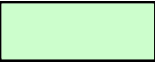



なおシート「現場記録写真」の次に入っている「他添付様式」シートは、必要に応じて「チェックリスト」等を作成する場合、使用し保存してください。

### 3 防災カルテ様式への入力

#### 3-1 入力項目の種別と入力規則

項目の色によって以下のように入力する方法、規則が分かれています。

	必須選択項目です。直接入力できません。 空白の選択ができるものもあります。 マウスで項目をクリックすると、▼が表示されるので▼をクリックしてください。選択肢が表示されるので、該当するものをクリックしてください。
	選択項目です。直接入力が可能です。 マウスで項目をクリックすると、▼が表示されるので▼をクリックしてください。選択肢が表示されるので、該当するものをクリックしてください。 選択肢に該当するものがない場合は、直接入力してください。
	直接入力する項目です。項目ごとに入力できる文字は決まっています。 基本的に自由入力ですが、数量などを入力する項目では半角数字のみになります。 特別な入力規則がある箇所では、セル上にメモが表示されます。
	入力できません。

### 3-2 項目別入力の補足

一部の項目について、入力の補足説明をします。

#### (1) 管理機関名と管理機関コード

管理機関名の黄色の枠をマウスでクリックし、該当する名称を選択してください。

管理機関名の緑色の枠に部署名や事務所名などを入力してください。

検査数字	管 理 機 関 名	[黄色枠]						
	管 理 機 関 コ ー ド	[緑色枠]						

↓

検査数字	管 理 機 関 名	富山県						
	管 理 機 関 コ ー ド	1	6	[緑色枠]			0	

富山県

〇〇事務所

1 6 [緑色枠] 0

管理機関名を選択すると、管理機関コード欄に各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局、都道府県(市町村)、政令指定都市コードが自動的に入力されます。それに続く事務所コードを選択し、管理機関コードとします。都道府県(市町村)、政令指定都市については、7桁目に0が自動で入力されます。都道府県公社、各高速道路株式会社については7桁とも入力してください。

また、[検査数字]ボタンを押すことにより、検査数字が自動計算されます。

検査数字は各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局は7桁目、都道府県(市町村)、政令指定都市は6桁目です。必要に応じて自動計算させてください。

検査数字	管 理 機 関 名	富山県						
	管 理 機 関 コ ー ド	1	6	2	0	1	9	0

富山県

〇〇事務所

1 6 2 0 1 9 0

クリック

自動計算される

(2) 施設管理番号

1マスに半角1文字の入力を行ってください。

施設管理番号	N	0	0	1	A	0	0	1
--------	---	---	---	---	---	---	---	---

(3) 路線名

路線名は、**正式な路線名**で入力してください。

**数字、記号は半角**で入力してください。

路線名	一般国道31号
-----	---------

(4) 距離標

百米標 (km)および百米未満の距離 (m) と分けて次のとおり入力してください。

距離標(自)	2	0	2	9	0	(至)	2	0	3	6	0
--------	---	---	---	---	---	-----	---	---	---	---	---

Km (4桁)                      m (2桁)

通常はblankとし  
距離標がマイナスの  
場合は「-」を選択

小数点  
(固定)

(5) 所在地

所在地は「都道府県」「市、区、郡、支庁」「区、町、村」は選択し、各名称は直接入力してください。

所在地	広島県	〇〇	郡	〇〇	町	字**
-----	-----	----	---	----	---	-----

(6) 経緯度

緯経度は度・分・秒を分けて数値を半角で入力してください。また秒は**小数第1位まで**入力してください。

北緯	34	度	39	分	46.0	秒	東経	132	度	21	分	31.0	秒
----	----	---	----	---	------	---	----	-----	---	----	---	------	---

(7) 専門技術者のコメントなど

専門技術者のコメントなど1つのセルの中で複数行の入力を行ないたい場合は、Alt キー+Enter キーを押すと任意に改行できます。

**[専門技術者のコメント]**  
高さ150m程の急斜面で、3本ほどの谷が集まる区間であるが、落石対策は鉄道の上側に落石防護柵が設けられているのみで、国道と鉄道の間は施設がない。H18年10月に国道に達する落石あり(落石防護柵の嵩上げによる暫定対策済み)。  
各谷の側面は高さ10m以下の垂直崖が多く形成され、不安定な岩塊も多数確認される。  
今後も落石は継続すると思われるが、φ0.5m以上の岩塊も多く、既往対策工では不十分である。  
露岩の半分はマサ状に強風化した部分を伴うため、かなり大きく崩壊する可能性もあることから、洞門のようにポケットの大きな対策が有効である。

改行をするときは、Alt キーを押しながら、Enter キーを押す